



一覧表

「第1回トヨタ先端研究フォーラム」のご案内	664
平成11年度笹川科学研究助成の募集	678
教官公募	680

編集後記：天気編集委員になって、はや1年が過ぎました。

月に1回編集委員会が開かれるのですが、そこでは前回の議事録のチェックに始まり、論文・短報の査読及び改稿状況のチェック、新しく受領された論文の担当者の選任、「本だな」で紹介してほしい旨送付されてきた図書についてのチェックと担当者の選任等が行われます。そのほか、各担当から提出された天気に関するさまざまな議題（例えば投稿規定の見直し等）についても話合われます。議論が続くなか、回覧されてくる図書や論文にも目を通さねばならないので、最初は要領を得ず、最近やっと慣れてきたところです。

天気では、各コーナーごとに担当が決められていますが、私はその中で、印刷原稿の校正やその他もろもろの雑務を行う事務局担当をしています。5か月に1回程度、その号に掲載される原稿に目を通し、印刷原稿と比較し、校正を行うのが主な仕事です。まず一行一行、誤字、脱字、打ち違いがないかチェックしたあと、図は見にくくないか、説明文と表や図が離れてい

ないか、意味が通らないところはないか見直します。数式が多いと、印刷屋から刷り上がってくる原稿も誤りが多くなりやすいので、細心の注意を払います。論文が多い月だと、週末は原稿を家に持ち帰ったりもします。

無事その月の天気が発行されると、ほっとはしますが、見過ごした誤字や写真の裏焼きなど大きな間違いがあるのではないかと心配で、天気が届くとこわごわ開いていたりします。

編集委員になる以前は、正直なところあまり熱心な読者ではなかったのですが、少なくとも5か月に一度は、すみずみまで読むことになり、苦しみつつも勉強になっています。

編集後記を書くのも初めてで、「天気を編集後記から読みはじめる人も結構いる」という話を聞かされ、さらに緊張しつつこれを書いています。微力ながら、今後も努力していきたいと思っています。

(板東恭子)